「東北圏広域地方計画」推進に関する情報紙

『東北圏だより』

第１０３号（平成３０年１２月４日）
発行：国土交通省 東北地方整備局
東北圏広域地方計画推進室
HP:http://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/top.html

盛岡市歴史的風致維持向上計画を策定しました

岩手県盛岡市

▲認定式の様子
（右から谷藤裕明盛岡市長、田中秀之国土交通大臣政務官、福井祐輔静岡県下田市長）

▲史跡盛岡城跡

盛岡市では、「盛岡市歴史的風致維持向上計画」を策定し、11月13日に、東北で10番目、岩手県内では初となる認定を国から受けました。

本市は、人口約29万６千人の岩手県の県庁所在地で、県の中央部北寄りに位置しており、市街地の中央部付近は、北上盆地を南北に流れる北上川と奥羽山脈を水源とする雫石川、北上高地を水源とする中津川などが合流するほか、岩手山や姫神山等の象徴的な山並みを中心市街地から見ることができる、豊かな水と緑に囲まれたまちです。

盛岡市に息づく伝統的な生業や文化は、盛岡藩南部氏の居城であった盛岡城の築城を契機とした城下町の形成・発展とともに、明治維新以降も県庁所在地としての機能を果たしてきた歴史の中で形成されてきたもので、城下町とその周辺に暮らす人々の手によって継承されています。

城下町の周辺では、三ツ石神社境内の花崗岩の巨石と、「岩手」の起こりの伝承にちなんだ「さんさ踊り」が、江戸時代から続く盆踊りとして、地域の寺社等で活動が継承されているほか、市民の努力により、盛岡市を代表する郷土芸能として発展を続けており、親しみのある歴史的風致を形成しています。

また、南部家の氏神として建立された「盛岡八幡宮」は、盛岡市とその周辺に住む人々の信仰の対象として、現在も多くの参拝客がおり、盛岡八幡宮とその周辺を舞台とした、「盛岡八幡宮の山車行事」や「流鏑馬神事」、「チャグチャグ馬コ」、「裸参り」といった江戸時代から続く祭礼・行事が、地域の人々の手により継承されており、祭礼や行事が行なわれる沿道には良好な歴史的景観が残されています。

盛岡市のまちづくりは、盛岡城付近で合流する北上川と雫石川、中津川といった河川のほか、周辺の沼や湿地、湧水を整備・活用しながら進められました。

江戸時代、治水・灌漑を目的として造られ、明治期に公園として整備された「高松の池」や、明治期の洪水後に造られた中津川の石組護岸は、市民の手によって環境保全の取り組みが続けられているほか、北上川を舞台とした送り盆の行事、「舟っこ流し」は、江戸時代から続いています。また、鉈屋町に残る共同井戸は、地域の人々の手によって維持管理が続けられており、盛岡市固有の歴史的風致を形成しています。

さらに、中津川の東側を中心とした地区では、周辺の自然と城下町に集まる物資を活用した産業として、南部鉄器の生産や酒造業が江戸時代から営まれているほか、伝統的な食材を楽しく食べることができる工夫がなされるなど、おもてなしの心と伝統を守り伝える努力が続けられています。

本計画では、盛岡市固有の歴史的風致を「盛岡さんさ踊りにみる歴史的風致」、「盛岡八幡宮とその周辺の祭礼にみる歴史的風致」、「水と関わる暮らしにみる歴史的風致」、「盛岡の伝統産業にみる歴史的風致」とし、重点区域は、４つの歴史的風致が相互に重なり合う、「史跡盛岡城跡」や重要文化財「岩手銀行旧本店本館」、「旧第九十銀行本店本館」をはじめとする国指定文化財や景観重要建造物など、歴史的価値の高い建造物が集中し、歴史と伝統を反映した人々の活動が現在も継承され、それらが一体となって盛岡市らしい風情を醸し出し、良好な環境を形成している区域としました。

▲岩手銀行旧本店本館と
盛岡八幡宮の山車行列

今後 10 年間、重要文化財をはじめとする歴史的な建造物とその周辺環境の保存修理、史跡の発掘調査と保存整備のほか、伝統的な祭礼・行事の活動支援、地域固有の歴史や伝統的な産業に関する情報発信など、計画に位置付けられた 15 の事業に取組み、「盛岡らしさ」を生かしたまちづくりを推進してまいります。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp